

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460

2024(令和6)年

仏暦2567年

10月号

(第157号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホツがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

たもち続けることはもっとも難しい

この句で、お釈迦さまの説かれた『無量寿経』に依るところを述べた『正信念仏偈』の「依経一段」が終わります。その『無量寿経』の終わりに、お釈迦さまはわたしは今、すべてのもののためにこの教えを説き、さらに無量寿仏とその国土のようすを残らず見せた。この上にまだ尋ねたいことがあるなら、ためらうことなく問うがよい。わたしがこの世を去った後に疑いを起こすようなことがあつて

「現代語訳」
信じることは実に難しい。難の中の難であり、これ以上に難しいことはない。
「正信念仏偈」に学ぶ
信楽受持甚以難
難中之難無過斯
信楽受持すること、はなはだもって難し。難のなかの難これに過ぎたるはなし。

はならない。やがて将来、わたしが示したさまさまなさとりへの道はみな失われてしまふであろうが、わたしは慈しみの心をもって哀れみ、特にこの教えだけをその後いつまでもとめておこう。そしてこの教えに出会うものは、みな願いに応じて迷いの世界を離れることができるであろう。と仰せになります。自身がこの世を去った後も、この教えをしつかり伝えていくよう示されました。そして、お釈迦さまは続けて
如来がお出ましになった世に生まれることは難しく、その如来に会うことも難しい。また、仏がたの教えを聞くことも難しい。菩薩のすぐれた教えや六波羅蜜の行について聞くのも難しく、善知識に会って教えを聞き、修行することもまた難しい。ましてこの教えを聞き、信じてたもち続けることはもっとも難しいことであつて、これより難しいことは他にない。

と弥勒菩薩に仰せになり、親鸞さまはこの文を引かれた。お釈迦さまは、いずれ末法を経て滅するであろう教えではあるが、後にもとどめておこうとされました。それは、何事においても保ち続けることは難しいからだと言われるのです。
「難中之難」(難中の難)と言われているところですが、近年の宗教観の変化による「難中の難」を感じざるをえなくなっています。生活の変化が、習慣やしきたりを重んじることが無くなり、古来の檀家意識も薄れ、次の世代もお寺に所属するという保証はありません。
教化するひと、まず信心をよく決定して、そのうえにて聖教をよみかたれば、きくひとと信をとるべし。
教化する立場で、『蓮如上人御一代記聞書』の、このお言葉が噛み締めているところ

浄土真宗 新 仏事のイロハ

四、法要・行事

— 仏縁を深めよう —

【初参式】

子供が生まれたらお寺へ初参り

赤ちゃんの誕生は、両親や家族にとつて何ものにも代えがたい喜びの一つでしょう。人としてこの世に生を享けることは極めて得難いことであり、不思議としか言いようがありません。

このかけがえのない“いのち”がすくすくと育つてくれるように、また人間に生まれた喜びをかみしめつつ人生を力強く歩んでくれるようにと、親なら誰もが願うところです。

そうしたわが子の人生の出发点にあたって、けつして崩れることのない依りどころとなり、支えとなつてくださる阿弥陀さまにご挨拶する式を、



「初参式」と言います。初参式は、子どもにとつての人生始まりの仏縁ですが、同時に親にとつても、親として生きる出发点であり、子によつて与えられた尊い仏縁です。

世間では、子が生まれて一か月ほど経つと“お宮参り”といつて、神社へお参りする習慣があります。残念ながらお寺へお参りする人は限られてるのが現状です。日ごろ「私は門徒です」と言っている方でも、なかなかお寺に参つてきてくださりません。これはどうしたことでしょうか。

「死に関わる悲しみ事がお

寺で、お祝い事は神社で」という意識が、人びとの心に深く刻まれているかもしれない。結局、ご門徒一人ひとりが聞法に励み、仏さまの大いなる慈悲のお心に触れることによつてしか、自らの人生に目覚めていく手だてはないのでしよう。

ともあれ、“死”が大きな仏縁となるのと同様に“生”もまた尊い仏縁となります。どうか初参式を人生にとつての大切な儀式だと思つて、お子さんのお寺への初参りを心がけてください。

なお、初参式は満一歳ぐらゐまでの適当な時期に手次ぎのお寺、あるいは本山、別院にお参りしてください。その際、あらかじめお参りしようとするお寺に連絡しておきましよう。中には、初参式を行う日取りが決まっているお寺もあり。詳しくは手次ぎのお寺にお尋ねください。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

年忌法要表

1 周忌	2023 (令和 5) 年	23 回忌	2002 (平成 14) 年
3 回忌	2022 (令和 4) 年	25 回忌	2000 (平成 12) 年
7 回忌	2018 (平成 30) 年	27 回忌	1998 (平成 10) 年
13 回忌	2012 (平成 24) 年	33 回忌	1992 (平成 4) 年
17 回忌	2008 (平成 20) 年	50 回忌	1975 (昭和 50) 年

編集後記

今月二十七日(日)は、万行寺の「報恩講法要」でした。

晴れて穏やかな日になり、お参りありがとうございました。◆寺報の発送は年二回とお伝えしましたが、間が空きすぎるため、年三回に変更をします。ホームページでは、毎月、載せていきます。



ます。